

文化的題材と学習者の興味に関する一考察

広島大学大学院

深 沢 清 治

1 はじめに

伝統的に英語教育は、教師、学習者、教材の3者から成ると言われている。最近の傾向として、これらがさらに細分化されてきているが、本研究ではこの3者のうちの教材にスポットを当て、指導要領に掲げられた外国語教育の3つの目標のうちの1つ、「外国語を通して、外国の人々の生活やものの見方について理解を得させる」という目標達成のための教科書の役割に着目し、その題材を学習者の興味という観点から分析考察していきたいと思う。

教科書の重要性について、シラバス作成の側から Alexander (1:90) は、言語教育においては好むと好まざるとに関わらずテキスト中心にならざるを得ず、そこでテキストが学習を動機づけるものでなくてはならないとしている。さらにまた教育学の立場からも Bruner (2:14) は、評点のような外的刺激よりも、教材に対する興味が真の動機付けになると述べている。そこで、以下教科書に焦点をしばっていききたい。

2 高校英語Bリーダーの題材分析

教科書はその構成要素として、言語材料、言語活動、題材といった3つの柱より成っている。ここでは、Joiner (3:242) の指摘するように、教師と同様に教科書は生徒にとっては異質文化への窓であることから、題材面に注目してみたいと思う。言語材料の羅列のみの教科書はあり得ないにも関わらず、従来から題材に関する論議は意外に乏しかったように思える。外国の人々および文化に対する理解は言語技能の養成ののちに徐々に養われるよりは、外国民の日常生活や風俗習慣、ものの見方等を理解することによって直接的に培われるものであると思われる、そのための材料と形態を提供するのが題材である。ところが、日本の教科書を見た場合、こうした配慮があまり見られず、日常生活場面とはかけ離れた道徳的な物語が多いとする Perkins (4:26) の指摘が的を得ているのかを、高校英語Bリーダーの題材分析を通してみたい。

まず評題にも挙げた「文化」とはいかなるものかを最初に明らかにしてみようと思う。ここで House (5:58) の定義を借りると、2つの概念に大別され、第1に、従来の人文主義的な考えによるもので具体的には文学、芸術、思想、感情などを表わした傑作とされるもので、外国語教育において言えば、生徒の心や道徳、嗜好を高める役割をするものが考えられ、これを Large-C-Culture と名付ける人もある。これに対して第2に、より理解しやすいと思われるもので、同一言語社会に住む人々が共通に持つ行動パターンの総体を指すという考えもある。これには単一文化の中で育った人にとっては全く完璧なもので無意識に従っているもの、たとえば日常生活様式、行事、対人関係などがあり、異文化に接して初めてその存在に気づくものとされている。後者の文化の側面を small-c-culture と名付ける人もある。

これら2つの文化概念に加え、題材の分析を進めていくうちに外国事情の理解といったものの中には、元来社会科の分野であるような地理、歴史といった分野もはいつてくる。そこで次の3つを題材のカテゴリーとして設定した。

- A : 外国の地理, 歴史, 自然風物
- B : 外国人の日常生活様式, ものの見方, 考え方
- C : 芸術, 科学, および哲学的遺産

この尺度を用いて, 昭和54年度発行の4種類の英語Bリーダーを分析した。日本ではほとんどの場合, 文化面の指導を引き出すのは教科書の題材であり, また題材の分析により教科書作成者側の文化教授に対する姿勢が窺えるものと思われる。各カテゴリーのモデルとなるパラグラフは次のようなものである。

(表1)

A: On 24 August in the year A.D. 79 the people of Pompeii were going about their business in the usual way. Suddenly it grew dark, and they looked up towards the top of Mount Vesuvius. A great cloud was leaving the top of the mountain; Vesuvius was erupting.

(Highroad 2, Lesson 4 Volcanoes p. 21)

B: So many nations, so many gestures. Here are some examples of gesture differences. An angler in Britain will show the size of a fish he has caught by holding his two hands, palms facing each other, the right distance apart in front of him, but an angler from certain parts of Africa will measure off the size along his left arm with his right hand. (Highroad 2, Lesson 9 Gesture p. 59)

C: Poetry should be a deep delight. It should be enjoyed as you enjoy a day in spring, when the sun is rising, the birds are singing, and the first flowers of the year are discovered along the edge of the woods. (Highroad 2, Lesson 2 What is Poetry? p. 8)

分析の結果, 教科書により題材分布に差はあるがCのカテゴリー, 主に伝記, 詩, 文学の類に偏っているのが見受けられた。分析した教科書だけから論を結べば, 題材がやや, 芸術, 科学, 哲学, 思想, 感情, 道徳といった方向に傾いていると言える。^(注1)

3 学習者の興味からみた題材の考察

題材を選択する場合, 教材作成者が主に言語材料を中心に重要とみなすものを取り入れるのが大部分であろうが, 逆に教科書を使って学習する側の視点も生かせないものであろうか。学習者と題材とを結ぶ最も重要な要素の1つに学習者の興味が挙げられるが, それは教材作成者の意図と必ずしも一致するとは限らない。そこで, この学習的視点を取り入れるにあたって, 学習者の題材に対する興味を何らかの方法で把握する意図のもとに, アンケート調査を行った。

本調査の目的

学習者の題材に対する興味がどこに, また, どの程度存在するのかを把握することを目的とする。

被験者

広島大学附属中学, 高等学校 中3・40名, 高1・40名, 高2・39名の合計119名

調査項目

織谷(6: 64-65)による題材の分類をもとに34項目を設定した。(表2参照)これらの項目

1) 詳しくは拙稿「文化教授の方向—教材研究を通して」, (全国英語教育学会第5回大会研究発表)『中国地区英語教育学会研究紀要』1980, No. 10を参照されたい。

表2 教科書の題材に対する興味に関するアンケート

学年 組 男 女 年令
(○で囲む)

外国語を学習する目標の1つに、外国の人々の生活やものの見方、文化を理解することが挙げられますが、では、あなたは以下の項目が教科書の各レッスンの題材として扱われるとした場合、どのくらい興味を持てますか。非常に興味があると思われるものに5、また全く興味がないものには1をつけ、5段階であなたの興味の度合を示して下さい。

	全く興味がない 1	あまり興味がない 2	ふつう 3	やや興味がある 4	非常に興味がある 5
A 1 環 境	1	2	3	4	5
B 2 家庭生活	1	2	3	4	5
B 3 家 族	1	2	3	4	5
C 4 科学・技術	1	2	3	4	5
A 5 自然・風物	1	2	3	4	5
A 6 産 業	1	2	3	4	5
B 7 社会生活	1	2	3	4	5
B 8 職業生活	1	2	3	4	5
B 9 スポーツ	1	2	3	4	5
B 10 食 事	1	2	3	4	5
B 11 趣 味	1	2	3	4	5
C 12 思想・感情	1	2	3	4	5
C 13 神 話	1	2	3	4	5
C 14 宗 教	1	2	3	4	5
C 15 生物・動物	1	2	3	4	5
B 16 学校生活	1	2	3	4	5
C 17 言 語	1	2	3	4	5
C 18 劇・映画	1	2	3	4	5
A 19 地 理	1	2	3	4	5
C 20 伝 記	1	2	3	4	5
C 21 道 徳	1	2	3	4	5
C 22 エピソード	1	2	3	4	5
B 23 日常生活	1	2	3	4	5
B 24 年中行事	1	2	3	4	5
B 25 ペ ッ ト	1	2	3	4	5
B 26 風俗・習慣	1	2	3	4	5
C 27 文学・詩	1	2	3	4	5
C 28 美 術	1	2	3	4	5
B 29 身 振 り	1	2	3	4	5
B 30 友人・隣人	1	2	3	4	5
A 31 歴 史	1	2	3	4	5
B 32 旅 行	1	2	3	4	5
A 33 人 種	1	2	3	4	5
C 34 音 楽	1	2	3	4	5

このアンケートであなたが気づいたこと、または、あなたがふだん教科書の題材について思っていることがありましたら記入して下さい。(注2)

2) 題材に対する生徒の意見、感想をまとめた結果は、拙稿「英語教科書の題材研究—学習者の興味から—」, 中国四国教育学会『教育学研究紀要』1979, 第25巻を参照されたい。

は先述の文化の概念からみた3つのカテゴリーに分類され、信頼性を持たせるため項目の順序を入れ替えた2種類のアンケートを用意した。

調査方法

生徒は、34項目それぞれについてどのくらい興味があるかを5段階で表した。集計は、各カテゴリーで各項目の点数を合計し平均をとった。

調査結果

各カテゴリーごとの学年別、男女別、および男女の平均を出した結果は次のとおりである。

(表3)

	中 3			高 1			高 2		
	M	F	Mean	M	F	Mean	M	F	Mean
A	2.63	2.80	2.70	2.74	3.06	2.87	2.94	2.56	2.79
B	2.69	3.47	3.05	2.89	3.64	3.19	3.25	3.44	3.33
C	2.68	3.06	2.90	2.77	3.52	3.07	2.89	3.12	2.98

また、各カテゴリーの中でも興味をひくものとそうでないものが考えられるため、それぞれのカテゴリーを離れて興味の高い、および低い題材を列挙すると次のようになる。

- 学習者の興味が高い題材……食事、劇・映画、スポーツ、音楽、エピソード、旅行、学校生活、趣味、日常生活、年中行事
- 学習者の興味が高い題材……道徳、宗教、美術、伝記、産業、地理、社会生活、職業生活、人種、ペット

考 察

結果的には有意差として認められる程の大きな差は見受けられなかったが、全体的にカテゴリーBの人々の日常生活様式、ものの見方、考え方を表わす題材に対しては他のグループよりもやや興味が高い傾向が見られる。このことから、対象となった学習者の興味は、教科書の題材が中学3年の段階から対話教材が極端に減少し、かわって物語文が多くなり思考、感情といった large-C-Culture の側面へと傾きを見せるのに対し、まだ自分たちの身のまわりの生活場面、またそうした英語社会のエピソードを求めていると思われる。

4 結 論

以上のアンケートの結果から得られた学習者の興味は、教科書の題材選定の上で何らかの示唆を与えるものと思われる。学習者の興味は未知の言語を学習することの成就感にのみならず、自分たちとは異なった文化に属する人々の異った行動様式や世界観に対する知的好奇心によっても高められ(7: 26-27)、このことは教材作成にも十分考慮されるべきことであろう。そこで選ばれた題材がいかに学習者の年齢、興味、学習進度に合わせて配列するかについて Chastain は、日常生活習慣といった人類学的な small-c-culture の側面から導入し、学習が進むにつれて large-C-Culture の側面に移行するのが望ましいとしている(8: 388)。年齢が進むにつれて、単純な日常生活様式の知識のみでは学習者は満足せず、かといって言語の芸術的側面である文学作品のみの学習では、異文化理解といった外国語教育の目標は果たせない。同じ small-c-culture の側面でも、異文化間では表層は同じでも深層での機能・役割の異なる風俗、習慣が考えられる。たと

えば、集団に対する日本と英語圏の人々との考え方の相違、親族呼称や挨拶表現の背後にある日本人とは異った考え方などは、これまで英語研究者の中では比較研究が行われているが、題材の中へは反映されていないのが現状であろう。こうした見えない文化、assumptionの違いは、上級者用の題材ともなりうると考える。これらの考え方の差が言語の差となって表れた場合、それは背景文化の差と考えるべきであり、その理解は言語能力の養成と共に真の伝達能力を形造るものであると思われる。

本研究では題材選択・配列について学習者側の視点を中心にのべてきたが、学習者の興味のみで題材の決定を任せるのではなく、あくまでも外国語教育の目的・目標との両視点からのアプローチが必要なのは言うまでもない。

最後に、本調査のために貴重な授業時間をさいて下さった広島大学付属中の林洋和先生に深く感謝したい。

〔引用文献〕

- 1 Alexander, L.G. (1976) "Where do we go from here? A Reconsideration of some basic assumptions affecting course design," *ELTJ* 30, 2, Jan. 89-103.
- 2 Bruner, Jerome S. (1960, 1977) *The Process of Education*. Harvard University Press.
- 3 Joiner, Elizabeth G. (1974) "Evaluating the Cultural Content of Foreign Language Texts," *MLJ* 58, 5-6, Sep.-Oct. 242-244.
- 4 Perkins, Leo G. (1978) "Developing Communicative Competence in English," 『英語教育展望』 1, 1, 26-29.
- 5 House, Juliane (1973) "Culture and Foreign Language Teaching: A Review of Current Trend," *CMLR* 29, 3, Mar. 58-64.
- 6 織谷 馨 (1969) 「高英Bリーダーの題材論」『英語教育』5月号, 64-67.
- 7 Tucker, G.R. and Wallace E. Lambert (1972) "Sociocultural Aspects of Foreign Language Study," James W. Dodge (ed.) *Northeast Conference on the Teaching of Foreign Languages*. 26-30.
- 8 Chastain, Kenneth (1976) *Developing Second-Language Skills: Theory to Practice*. Second Edition Rand McNally College Publishing Company.